

第9回技術情報検討会議事概要

1. 日 時:平成26年7月7日(月) 10:00～11:30

2. 場 所:原子力規制委員会13階A会議室

3. 出席者:

原子力規制庁

平野技術総括審議官、竹内原子力安全技術総括官、櫻田規制部長、山本審議官、大村審議官、佐藤原子力規制企画課長、山形安全規制管理官(BWR)、坂内安全規制調整官、澤田安全規制管理官(発電炉検査)、黒村安全規制管理官(新型炉・試験研究炉・廃止措置)、石井安全規制調整官(再処理・加工・使用)、南山安全規制管理官(廃棄物・貯蔵・輸送)、山田技術基盤課長、小林安全技術管理官(システム安全)、梶本安全技術管理官(シビアアクシデント)、内田安全技術管理官(核燃料廃棄物)、高松安全技術管理官(地震・津波)、武山事故対処室長

吉野安全規制調整官、関管理官補佐、忠内管理官補佐、佐久間検査官、藤本首席技術研究調査官、二宮品質管理専門官、矢野総括原子力施設検査官、河合管理官補佐

事務局

石井企画官、小林課長補佐、有吉課長補佐、伊藤専門職

日本原子力研究開発機構

渡邊規制情報分析室長

4. 議題: (1)技術情報の検討について

(2)その他

5. 議事要旨

(1)事務局より、議題(1)「技術情報の検討について」について、資料の順に従って説明した。

○事務局より、「第8回技術情報検討会議事概要」(資料9-1)、「原子力施設の運転経験反映のための取組みについて」(資料9-2)、「スクリーニングと要対応技術情報の状況」(資料9-3)、「2次スクリーニングの検討状況」(資料9-4)及び「要対応情報とするために更なる調査を必要とする案件」(資料9-5)について説明があり、了解された。

○要対応技術情報とする案件(資料9-6)、(資料9-7)

＜空気と水の相互作用による消火系配管内部での腐食＞

- ・本事例に鑑み、消火設備についても適切な点検が必要である。
- ・発電用原子炉、研究開発段階炉、再処理施設については、現状、新たな対応を必要とする設備はないため、米国の事例と同じ型式の水系の消火設備を設置する場合は、今後の規制活動を通じてその取り組みを確認していく。
- ・上記以外の施設については、実態調査を行い、必要に応じて事業者への情報提供等の措置を行う。

○国内トラブル(資料9-8)

- ・今後、長期停止に係るトラブルについても注意を要する。適切な事例があれば、本検討会で取り上げていく。

○事務局より、「要対応技術情報リスト(累積)」(資料9-9)について説明し、了解を得た。

○高速増殖原型炉もんじゅの非常用ディーゼル発電機で確認されたシリンダライナの傷を踏まえた各事業者の対応について(資料9-10)

- ・本件は旧原子力安全・保安院における法令報告事象であるが、最近、もんじゅ以外のプラントについても状況確認が終了したため、その内容が紹介された。

○東北電力株式会社女川原子力発電所第1号機における原子炉建屋天井クレーン走行部の損傷に係る同社からの報告に対する評価(資料9-11)

- ・本件は、法令報告事象であり、原子力規制委員会に対する報告内容が紹介された。

○「1次スクリーニング結果」(参考資料9-1)

- ・IN 2013-22「個人的な識別情報を含む最近の認可提出物」、他2件について、追加の確認を踏まえて記載内容を見直す。

(2)その他

- 現在、本検討会で海外の事故トラブル情報が主になっているが、今後は学会発表や論文等においても規制に必要な情報があれば取り上げていく。

以上